

日本臨床検査医学会 2022 年度 第 3 回理事会（理事総会） 議事録

日時：2022 年 10 月 22 日（土）15：00～18：00

開催方法：現地と Web のハイブリッド開催

出席（現地）：大西宏明 理事長、大谷直人会計理事、古川泰司総務理事、矢富 裕 理事（4 名）

出席（Web）：田部陽子副理事長、木村 聡、日高 洋、松下一之、吉田 博、井上克枝、堀田多恵子 各理事
高橋 聡、志村浩己、東田修二、伊藤弘康、山崎正晴、大澤春彦 各支部理事
諏訪部章 監事（14 名）

欠席：満田年宏、森兼啓太、下 正宗 各理事、柳原克紀 支部理事、古田 耕 監事（5 名）

I 開会、理事長挨拶（大西宏明 理事長）

大西宏明理事長から理事会が成立すること、議事録署名人は出席した理事長と監事が記名押印することを報告のうえ、一言挨拶があり議事を進めた。

満田年宏理事が病気療養中であることが報告され、EBLM 委員会の担当理事については田部陽子先生が代理となることが報告された。

II 報告事項

1. 支部報告

各支部の終了した例会・総会・地方会、そして例会・総会・地方会の予定、支部役員の交代、支部での検査関係の教授、部長、技師長の退任・新任等について報告があった。

2. 各種委員会報告

1) 学術推進化委員会（矢富 裕 担当理事）

2022 年度学術推進プロジェクト採択課題について、2 件の応募があり、その 2 題を採択したこと、2018 年度学術推進プロジェクトの最終報告の投稿に関して、学術推進化委員会を通さず、直接、編集担当に投稿され、受理まで進んでいることが判明し、学術推進化委員会があらためて査読して対応したこと、今後は、学術推進化委員会に最終報告の投稿がされるように徹底していくことが報告された。

2) 編集委員会（大谷直人 担当理事、吉田 博 委員長）

優秀論文賞の選考を行い、2 名を学会賞委員会に報告したこと、2022 年 11 月に英文誌を創刊する予定であること、なお、査読システムは ScholarOne Manuscripts を採用予定であること、Pub Med の掲載が滞っていたが、交渉のうえ再開できること、投稿論文の査読状況確認とトピックス案の検討を行ったことが報告された。

3) 標準化委員会（日高 洋 担当理事）

C ペプチドの国内試薬におけるハーモナイゼーションのため、プロトコールの原案を作成し、次回の標準化委員会で審議する予定であることが報告された。

4) 精度管理委員会（堀田多恵子 担当理事）

2022/10/4 に委員会をオンラインにて開催した。

CAP サーベイ日本事務局（CGI）より 2022 年度 CAP 国際臨床検査成績評価プログラムについて中間報告され、2022 年度サーベイ参加施設数は 184 施設であり、昨年と比較して 14 施設減であったが、参加中止施設全体の 63%が新型コロナウイルス関連検査の参加施設だった。本年度は外部精度管理調査及び CAP 国際臨床検査成績評価プログラムに関するアンケートを実施予定であること、2023 年度のカタログの承認を行ったこと、「臨床検査室グローバルニュース」2022 年 5 月 25 日に春号、8 月 25 日に夏号を発行し、今後 11 月 25 日に秋号、2023 年 2 月 25 日に冬号を発行予定であることが報告された。

5) 検査項目コード委員会（松下一之 担当理事）

臨床検査項目（JLAC10）を学会 HP（<https://www.jslm.org/committees/code/index.html>）に随時更新して

いること、臨床検査点数委員会からの依頼で R6 年の診療報酬改定の定量、半定量、定性検査の検査コードの抽出を行ったことが報告された。

6) 広報委員会 (木村 聡 委員長)

神戸国際会議場で開催の JACLaS 展示にて当学会のブースを用い、「新型コロナウイルス検査の課題と本学会の対応」について展示と資料配布を行ったこと、 学術集会中に委員会を開催予定であることが報告された。

7) 臨床検査室医療評価委員会 (堀田多恵子 担当理事)

厚生労働行政推進調査研究事業費補助金 日本医学会連合門田班 (臨床内科グループ) の調査研究事業の業務 (新型コロナウイルス感染症における直接的な健康影響及び他の疾患の医療に与えた影響の調査に関する研究) に当学会として参画することとなり、研究タイトルは「COVID-19 パンデミックと臨床検査体制」とし、11 月に全国の臨床検査室を有する医療機関にアンケート調査を行い、2023 年 4 月までにデータをまとめて報告書を作成予定であること、ISO/TC 212/WG1 による ISO 15189 の改訂作業が進行中であり、2023 度の学術集会で教育的講演を企画する予定であること、委員会のアドバイザーが人見博也氏から下田勝二氏に交代となったこと、上叢義典先生 (慶應義塾大) を委員に追加する予定であることが報告された。

8) 遺伝子委員会 (松下一之 担当理事)

ジェネシスヘルスケア社 (全ゲノム解析サービス) に対する日本医学会への対応について、委員会の意見をまとめたこと、遺伝子関連検査教育に関する活動を他の委員会と協働で検討したことが報告された。

9) 会則改定委員会 (田部陽子 委員長)

定款 第 5 章 社員総会の改定案を作成し、2022 年度第 2 回理事会において承認されたため、2022 年度臨時社員総会の審議に諮る予定であることが報告された

10) チーム医療委員会 (田部陽子 担当理事)

「地域連携の中での臨床検査の位置づけと臨床検査専門家の役割」に関してチーム医療を焦点にして委員会内討議を行ったこと、「パニック値」の運用に関して提言を公開し、質疑応答も行い、現在、公開後におけるパニック値の状況について全国施設調査を企画中であることが報告された。

11) ワークライフバランス委員会 (田部陽子 担当理事)

臨床検査専門医取得に関するサポートセンターで 11 件の問い合わせに回答したこと、2022 年 8 月 21 日 (日) 13-17 時に、本委員会主催、共催：日本臨床検査医学会近畿支部、教育委員会、日本臨床検査専門医会、日本医師会で、第 6 回 ハンズオンセミナーを Web 開催したこと、第 69 回学術集会でワークショップ「臨床検査医として遺伝子関連検査に関わろう！」を企画していることが報告された。

12) 統合システムに基づく臨床検査のあり方委員会 田部陽子 担当理事

PHR (Personal Health Record) 事業者団体(経産省系・仮称)の会議(2022/8/10)に、委員長 (湯地晃一郎先生) がオブザーバー参加したこと、本学会含む 6 臨床学会では、2018 年 10 月に PHR 推奨設定を公開しており、今後、この推奨設定を反映させたデータ基盤を PHR 事業者団体(経産省系・仮称)と議論する予定であること、健康情報サービス (HER, PHR) の共通基盤化・利活用を目的として、臨床検査を含む医療データのコード標準化に取り組んでいる AMED 中島班に、委員長がオブザーバー参加する予定であること、第 69 回学術集会、11 月 19 日 (土) に委員会開催を予定していることが報告された。

13) 新型コロナウイルスに関するアドホック委員会 (古川泰司 総務理事 柳原克紀 委員長欠席のため)

COVID-19 に対するこれまでの対応と、今後に向けた備えについての総括準備をしていることが報告された。

14) 国際委員会 (井上克枝 担当理事)

9 月 29 日～10 月 2 日に第 31 回 WASPaLM がウルグアイで開催され、当会からは、村上正巳先生と下澤達雄先生が出席されたこと、10 月 7 日～9 日に第 17 回 ASCPaLM が神戸アリストンホテルで開催され、

シスメックスの見学、ウエルカムパーティーなどもあり盛会裏に終了したことが報告された。

3. 第 69 回学術集会報告（宇都宮 2022/11/17(木)～11/20（日）、山田俊幸 会長）（古川泰司 総務理事）

2022 年 11 月 17 日（木）～20 日（日）に、栃木県総合文化センター（メイン）、宇都宮東武ホテルグランデ（サブ）において、山田俊幸会長（自治医大）のもと、テーマ「地域社会に貢献する臨床検査」として、対面を基本として開催予定であること、会場参加ができない場合は録画を可能とすること、一般演題は 304 題、ランチョンセミナー、主要プログラム、日程表等が報告された。

4. 第 70 回学術集会報告（長崎 2023/11/16(木)～11/19（日）、柳原克紀 会長）（柳原克紀 会長欠席のため古川泰司 総務理事）

2023 年 11 月 16 日（木）～19 日（日）に、出島メッセ長崎（長崎）において、柳原克紀会長（長崎大）のもと開催予定であり、副大会長として長谷川寛雄先生、木村由美子先生、事務局長として佐々木大輔先生、運営事務局は（株）コンベンションリンケージが担当することが報告された。

5. 第 71 回学術集会報告（長崎 2024/11/28(木)～12/1(日)、日野雅之 会長）（古川泰司 総務理事）

2024 年 11 月 28 日（木）～12 月 1 日（日）に、大阪国際会議場（グランキューブ大阪：大阪）において、日野雅之先生（大阪公立大）のもと開催予定であり、事務局長として中前美佳先生（大阪公立大）、運営事務局は（株）サンプルネットメディカルコンベンション事業部が担当することが報告された。

6. 第 12 回特別例会報告（東京 2023/4/22(土)、古川泰司 特別例会長）（古川泰司 特別例会長）

第 31 回日本医学会総会に合わせて日本医学会分科会として第 12 回特別例会を、2023 年 4 月 22 日（土）、大手町サンケイプラザホールにおいて、古川泰司特別例会長（帝京大）のもと、テーマ「臨床検査の未来を担う基盤と人～SDGs 3, 8, 9～」として開催予定であり、事務局長として横山直之先生、奥藤由紀子先生が担当すること報告された。

7. 本学会からの関連団体派遣委員について（大西宏明 理事長）

前回理事会（7 月 2 日）以降に新たに当会からの派遣が決まった委員等について報告された。

8. 第 2 回機構専門医・第 39 回臨床検査専門医認定試験結果について（東京 2022/8/7(日)）（大西宏明 審議会委員長、古川泰司 実行委員長）

8 月 7 日（日）、帝京大学霞ヶ関キャンパスで、第 2 回日本専門医機構基本領域臨床検査専門医および第 39 回日本臨床検査医学会臨床検査専門医認定試験を実施した。当日は、会場での機材不足、物品搬出不備などのトラブルがあったが、会場の入れ替えのみで済み、試験自体は問題なかった。

当初の機構専門医受験希望者 12 名、学会専門医受験希望者、初回受験 6 名、再試験受験 3 名だったが、学会専門医初回受験者が新型コロナウイルス感染の影響により出張不可の 2 名、体調不良により 1 名が受験辞退し、初回受験 15 名、再試験 3 名の合計 18 名が受験した。

8 月 19 日に試験委員会・試験実行委員会合同判定会議（Web）、9 月 15 日に臨床検査専門医・管理医審議会を行い、機構専門医 11 名の合格、1 名の不合格、学会専門医の初回受験 3 名の合格、科目受験 1 名が合格、2 名が 1 科目不合格となった。以上が報告された。

なお、判定会議がオンラインであったこともあり、そのデメリットもあるため、次年度以降の開催は可能な限り現地で行うべきとなり、また、試験委員会、試験実行委員会、判定会議、臨床検査専門医・管理医審議会のそれぞれの目的、役割を明確にすることが必要となり、規定の見直しを行うこととなった。

9. 第 14 回臨床検査管理医講習・認定試験結果について（東京 2022/9/4(日)）（大西宏明 審議会委員長）

2022 年 9 月 4 日（日）に順天堂大学本郷キャンパス 15 号館 2 階において、第 14 回臨床検査管理医講習・認定試験を実施した。当初 41 名の受験希望者があったが新型コロナウイルス感染での影響により 3 名が受験辞退、38 名が受験した。9 月 15 日に臨床検査専門医・管理医審議会を行い、37 名が合格、1 名が不合格となった。以上が報告された。

10. 日本医学会連合門田班臨床内科グループ受託研究でのアンケート内容について（大西宏明 理事長、堀田多恵子 臨床検査室医療評価委員会 担当理事）

令和4年度日本医学会連合「厚生労働科研」門田班 臨床内科グループ研究を分科会学会として専門分野の診療におけるコロナの影響について、アンケート調査などを実施したうえで研究要請（2023年4月まで）があり、当会としても参画する。本件については、臨床検査室医療評価委員会に担当いただき、研究タイトルは「COVID-19 パンデミックと臨床検査体制」として研究を進めることとなっているが、アンケート内容について、現在、理事から意見を求めており、意見を確認のうえ、最終のアンケート内容を決定する予定であることが報告された。

11. 日本医学会「遺伝子・健康・社会」検討委員会への共同提案について（大西宏明 理事長、松下一之 遺伝子委員会 担当理事）

全ゲノムシーケンシング型 DTC（一部が医療と解釈される）に対して、ゲノム解析サービスの内容は研究のみならず医療に該当する部分が含まれ、また、ゲノム解析後の検体やデータ（残余試料）の取扱いについても不明の点が多くみられるため、当会として、遺伝関連学会と協働して日本医学会「遺伝子・健康・社会」検討委員会に提案書提出などのアクションが必要ではないかと遺伝子委員会では検討しており提案があったことについて、重要なことであるため、引き続き検討していくことが報告された。

12. 「遺伝情報の保護と遺伝情報による不当な差別の禁止に関する法律の成立に向けた活動」への賛同について（大西宏明 理事長、松下一之 遺伝子委員会 担当理事）

2018年より議論を進めてきた超党派「適切な遺伝医療を進めるための社会的環境の整備を目指す議員連盟」の尽力により、「良質かつ適切なゲノム医療を国民が安心して受けられるようにするための施策の総合的な推進に関する法律」の大綱が完成し、それを基にした基本法の成立を目指している。基本法では、長年、患者団体などからも要望があった遺伝情報に基づく不当な差別の禁止や生命倫理への配慮が謳われており、そのほか、ゲノム医療推進のための予算措置、人材確保なども含まれている。本件に関して当会も賛同学会となってほしい旨の依頼が超党派「適切な遺伝医療を進めるための社会的環境の整備を目指す議員連盟」からあり、先般、持ち回り理事会で承認を得て、当会として賛同の意を表明したことが報告された。

13. 日本医学会連合 Japan CDC 創設に関する委員会の活動報告について（大西宏明 理事長）

日本医学会連合 Japan CDC 創設に関する委員会の当会からの委員（宮地勇人先生）から、委員会構成学会対象のアンケート調査結果、「新型コロナウイルス感染症に関するこれまでの取組を踏まえた次の感染症危機に備えるための対応の具体策」の報告があった。

14. その他

・細則の評議員、社員の表記について（田部陽子 会則改定委員会 委員長）

7月2日の第2回理事会で理事（森兼啓太先生）より、「社員総会についての細則であるのに評議員と呼称されるのは不自然ではないか」との指摘があったことについて、会則改定委員会から、本会定款、第4章第15条で「正会員の中から10名以上300名以下の評議員を選出し、この評議員をもって一般社団法人および一般財団法人に関する法律（以下、「一般法人法」という）上の社員とする。」と定めていること、弁護士顧問（古川俊治先生）に確認し、「評議員」から「社員」への一律変更が適当か否かは法律問題ではない。法律的には、何れも可能。との回答であったことにより、「評議員」から「社員」への一律変更は行わず、現状通りとすることが報告された。

・臨時社員総会での各種委員会中間活動報告について（大西宏明 理事長、古川泰司 総務理事）

臨時社員総会で委員会中間報告のため、例年通り、各種委員会担当理事および委員長と、臨床検査専門医・管理医審議会各委員長に、委員会中間活動報告（200字程度）の提出依頼をするため、担当理事に協力依頼がなされた。

・各種委員会でのアンケート調査について（大西宏明 理事長）

これまでも様々な委員会から事務局にアンケートの実施要請があり、その都度、説明や交渉が発生している。そのため、原則としてアンケートの実施は各委員会から行っていただき、事務局はアドレスの提供や、場合によってアンケート方法等の相談に応じるのみとするという方針が示され、各委員会への協力依頼がなされた。

Ⅲ 審議事項

1. 2022 年度中間事業報告について（古川泰司 総務理事）

2022 年度中間の事業報告がなされ、承認された。

2. 2023 年度事業計画案について（古川泰司 総務理事）

2023 年度事業計画（案）の説明がなされ、承認された。

3. 2022 年度会計中間実績・2022 年度補正予算案・2023 年度予算案について（谷直人 会計理事、大西宏明 理事長）

2022 年度中間実績：2022/1/1～2022/6/30 までの実際の収入と支出の実績額である。

2022 年度補正予算案：

- ・一般会計：英文誌（Laboratory Medicine International）第 1 巻 1 号）発行のため補正を立てた。
収入として投稿料（約 22000 円）、支出は査読システム：ScholarOne Manuscripts の初期設定費用、年間費用、宇宙堂八木書店での制作費として合計、約 110 万円を立てた。
- ・特別会計：会員マイページを運用上、必要が出てきたため改修費用 100 万円を支出として立てた。
- ・アジア交流基金：2022 年 10 月 7～8 日に神戸で開催した第 17 回アジア臨床病理・臨床検査医学会（ASCPaLM、宮地勇人会長）に補助金として 200 万円を支出した。

2023 年度予算案：収入、支出とも、2022 年度予算をほぼ踏襲している。ただ、英文誌発行にあたり、収入としては投稿料として概算で 250000 円、支出は査読システム ScholarOne Manuscripts の年間費用約 25 万円、編集委託先の制作費 132 万円、校正等管理料 22 万円で 200 万円を立てた。

以上が報告され、審議のうえ承認された。

4. 第 68 回学術集会会計報告（富山 2021/11/11(木)～11/14(日)）（谷直人 会計理事）

2021 年 11 月 11 日～14 に富山（北島勲会長）で開催された第 68 回学術集会の会計報告がなされ、承認された。

5. 学会賞・功労賞に関する規定の一部改定について（大西宏明 理事長、井上克枝 学会賞委員会 担当理事）

①若手研究者奨励賞について、レベルの向上を図るため、受賞者人数を若干名より 1 名として、副賞を 10 万円から 20 万円とする提案、②若手研究者奨励賞、検査・技術賞、学術賞への同一人からの応募は可能だが、下位の賞受賞後、上位の賞に応募する場合、受賞に値する研究の積み上げにはある程度の期間が必要であることを前提に、それぞれの賞の重みを考慮して、他賞を受賞後、学術賞に応募する場合には 5 年間以上、若手研究者奨励賞を受賞後、検査・技術賞に応募する場合には 3 年間以上の研究業績の追加を必要とするこの提案があり、承認された。

なお、優秀論文賞と若手研究者奨励賞の重複受賞に関しては、編集委員会委員長（吉田博先生）より、前年度の機関誌掲載であること、受賞候補者が重複したため受賞者無しとなる可能性もあるのではないかと指摘があり、再検討することとなった。

6. 委員会委員長、委員について（大西宏明 理事長）

1) 臨床検査室医療評価委員会 委員の追加

委員として上叢義典先生（慶応義塾大学）の追加が諮られ承認された。

2) 統合システムに基づく臨床検査のあり方委員会 委員長について

現在、本委員会は湯地晃一郎先生だが、湯地先生は評議員でなく正会員だったことが判明した。細則により、「委員長は、評議員のなかから選出され、理事会の承認を経て理事長が委嘱する。」と規定されているため、本人および担当理事の田部先生と相談のうえ、田部先生が委員長を兼任し、湯地先生は副委員長としてこれまで同様、活動することが提案され、承認された。

7. 遺伝子関連検査教育の推進について（大西宏明 理事長）

7 月 21 日、厚生省の第 14 回がん診療提供体制のあり方に関する検討会で、がんゲノム医療中核拠点病院等

の整備に関する指針（案）が示され、

② 臨床検査を行う部門の人員について、以下の要件を満たすこと。

ア がん遺伝子パネル検査に関連する臨床検査医学に関する専門的な知識及び技能を有する常勤の医師が配置されていることが望ましい。

イ がん遺伝子パネル検査における血液検体等の取り扱いに関する専門的な知識及び技能を有する常勤の臨床検査技師が配置されていることが望ましい。

と、臨床検査部門の人員に関する要件（常勤医、臨床検査技師）が示された。

要件について、病理医については病理学会において既に教育体制や認定制度が立ち上がっている。

当学会でも、がん遺伝子パネル検査に対応するための教育を行っていくべきではないかとなり、まず、関連する遺伝子委員会、教育委員会、ワークライフバランス委員会の担当理事、委員長と協議を行った結果、当学会として認定等の枠組みはまだ作成していないが、何かしらのインセンティブは必要であるため、それらを含めて遺伝子関連の教育を推進すべきとなり、教育委員会のなかに WG を設置して検討していくことが提案され、承認された。

8. 学会内での倫理に関する審査について（大西宏明 理事長）

学会主導の研究などの場合、学会内での倫理審査をする体制が必要となることから、そのような場合は倫理委員会が担当することが承認された。

9. 各種委員会の役割・規定について（大西宏明 理事長）

各種委員会の活動内容、役割などの内規が必要と提案があり、ホームページ上に掲載されている委員会の活動内容の資料が提示され、各委員会で検討いただくことが承認された。

10. 支部例会開催について（大西宏明 理事長）

第 40 回日本臨床検査医学会東海・北陸例会について、第 62 回日本臨床化学会年次学術集会（9 月 30 日～10 月 2 日）のシンポジウム 3（共催シンポジウム）のみを、第 40 回東海・北陸支部例会（10 月 1 日開催）とするということだったが、例会では複数の講演やシンポジウム等が開催されることが通例である。また、支部総会や支部例会でシンポジウム、教育講演等開催される場合、座長や演者はその支部所属の先生が担当することが多いが、今回は東海・北陸支部会員ではなかった。さらに、支部例会のみに参加したい場合でも第 62 回日本臨床化学会年次学術集会の参加費 10,000 円を支払う必要があり、支部例会のみの参加証の発行も不可ということであった。このような事例は、これまで先例がなく、支部例会の意義を考えると好ましい状況とは言えないことから、今後、開催する際には、留意していただくこととなった。

11. 厚生労働省 C-2 水準の審査について（大西宏明 理事長）

厚生労働省で医師の働き方改革に係る C-2 水準審査が実施されるが、各学会でその審査員の登録が必要となる、理事の先生全員を審査委員と登録したい旨、説明があり承認された。

12. 2023 年度からの名誉会員・功労会員・社員（評議員）の推薦について（大西宏明 理事長）

名誉会員、功労会員、評議員の推薦について資格要件が確認され、次の通り、名誉会員、功労会員、評議員として承認された。

1) 名誉会員として、東條尚子先生、宮地勇人先生、北島勲先生、前川真人先生、合わせて合計 4 名。

2) 功労会員として、北海道支部から藤井聡先生、東北支部から萱場広之先生、近畿支部から小杉眞司先生、合計 3 名。

3) 評議員として、関東・甲信越支部から江原佳史先生、大塚弘毅先生、大門雅夫先生、安原努先生、中国・四国支部から北中明先生、合計 5 名。

13. 評議員の再任について（2023/01/01 付）（大西宏明 理事長、評議員資格審査委員会 委員長）

2023 年 1 月 1 日付評議員再任予定者 29 名が提示された。再任手続きは、2022 年 12 月 26 日開催予定の評議員審査委員会での審査、審議会後となるが、評議員再任には社員総会の承認が必要のため、本理事会、2022 年 11 月 17 日の臨時社員総会の承認を得ておきたい。ただし、再任の単位を満たさない場合は退任となることを前提のうえ、2023 年 1 月 1 日付の評議員再任予定者 29 名について承認された。

14. 2023 年度各契約更新について（大西宏明 理事長）

2023 年度、次項の契約更新について確認のうえ承認された。

- ・顧問（弁護士：古川俊治先生、会計：野澤孝志先生）
- ・日本臨床検査医学会誌編集製作：宇宙堂八木書店
- ・事務委託：宇宙堂八木書店
- ・広告募集：日本廣業社、福田商店広告部、学術広告社
- ・外部販売：宇宙堂八木書店

15. 第 72 回学術集会 会長の推薦について（田部陽子 副理事長）

2025 年 第 72 回学術集会の会長として、関東・甲信越支部より大西宏明氏（杏林大学）が推薦され、北海道支部からは推薦がなかった。協議の結果、理事会として大西宏明氏を第 72 回学術集会の会長として推薦することが承認された。

16. その他

2023 年度理事会、社員総会日程の確認（古川泰司 総務理事）

次回以降の 2023 年度の理事会、定時社員総会の日程が報告され、確認依頼がなされた。

- ・2023 年度第 1 回理事会、定時社員総会：2023 年 3 月 26 日（日）

IV 閉会の挨拶（田部陽子 副理事長）

田部陽子副理事長より閉会の言葉があり本理事会は閉会された。

以上

以上の決議を明確にするため、この議事録を作成し出席理事長、副理事長及び監事がこれに記名押印する

2022 年 12 月 13 日

一般社団法人日本臨床検査医学会 理事会

議長 理事長 大西宏明

副理事長 田部陽子

監事 諏訪部章